

---

# 君の奏でる、音の魔法。

北川瑞稀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君の奏でる、音の魔法。

### 【Nコード】

N1773J

### 【作者名】

北川瑞稀

### 【あらすじ】

「まるで、君の奏でる音は、魔法のようでした。」  
少女と少年が出会うことによって、物語は始まった。

ポーン…

ピアノの音が響く。

金曜日の放課後。

誰もいない静かな音楽室の中、少年は一人でピアノを弾いていた。

いつも聴くピアノの音なのに、その音はいつもよりもきれいに聴こえた。

「…ねえ、何弾いてるの？」

そして私は、気がつくまで声をかけていた。

「…別に…」

少年は少しだけ私のほうへ顔を向けたが、すぐにまたピアノへ視線を戻してしまった。

「ねーえ、何弾いてるの？」

「…ピアノ。」

「そうじゃなくて…何の曲弾いてるの？」

「……」

「ねえ！ねえ！な・ん・の・きよ・く・ひ・い・て・る・の？」

私が何度もしつこく尋ねるものだから、少年はぼつん、と言った。

「…ブラームスの、ラプソディ。」

「…ラプソ…ディ？なにそれ？」

「一九世紀にヨーロッパで数多く作曲された自由に幻想的な楽曲のことだ。」

「へえ…。物知りなんだね！」

「別に…常識だろ。」

少年はピアノを弾きながらも、淡々と私の質問に答えてくれる。

「悲しい曲だね…。」

「そうだな。」

こういう私の何気ない独り言にも、ちゃんと言葉を返してくれることがすごくうれしかった。

「…ねえ、なんか他の曲も弾いてみてよ。」

「やだ。」

即答…。これが取り付く島もないってやつ？  
しょうがない、質問を変えてみよう。

「なんでここでピアノ弾いてるの？」

「家に帰りたくないから。」

少年はあっさりど、でも堂々と答えた。

「…そっか、私もだよ。」

少年が、ほんの少しだけ反応した…気がした。

…いいや。この際、ぜんぶ話しちゃおう。

「…お母さんと、おばあちゃんの仲が悪いの。いつも何気ないことでケンカして…。」

今日の朝だって、目玉焼きにかけるのはソースか醤油かがきっかけで大ゲンカ。

お父さんだって気付いてるはずなのに…無視してる。

朝早く出かけて、夜遅く帰ってきて…私たちを避けてるの。」

ああ、この曲は、まるで私の心情を表しているみたい。

悲しくて、だけど激しくて…。

「今もきつと、ケンカしてるよ。」

私がこの学校に入ったことでも、ずっと言い争ってたし…。」

「…ふーん…。」

曲が、終わった。

残念…もう少し聴いてたかったのにな。

「…あなたはなんで家に帰りたくないの？」

答えてもらえるとは思ってないけど、この少年のことをもっと知りたかった。

「…なんで…かな。なんとなく…なんだろうな、きっと。」  
「…なにそれ…自分でもわからないの？」

少しおかしくて、思わずくすつと笑ってしまった。

「ねえ、月曜日もここにいる？」

「…いや、いない…と思う。」

「火曜日は？」

「…いない。」

「水曜日は？」

「いない。」

「木曜日は？」

「いない。」

「…じゃあ、金曜日は？」

「いる…と、思う。」

「…じゃあ、また来てもいい？」

「…ああ。」

その肯定の言葉が、うれしかった。

ホントに、すっごく。

「私、杉浦泉っていうの！二年生。あなたは？」

「…植草遥。二年だ。」

最後まで、無愛想。

まあいいか、来てもいいって言ってくれたしね。

「じゃあ、遥くん！またね！」

「…ああ。」

思えばすでに、君に惹かれてたのかもしれない。

(後書き)

こんにちは、もしくははじめまして。北川瑞稀です。

この話は、ピアノのお話です。…読んでてわかると思いますが。

連載小説にしようかな〜とも一瞬思いましたが、続けられなさうなのでやめておきます…。

でも、いつか続編を書きたいです…。

感想などをもらえると嬉しいです。

おかしな点などありましたら御指摘ください。

読んでくださりありがとうございます!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1773j/>

---

君の奏でる、音の魔法。

2010年10月28日06時51分発行